序

永永二百の年

山中里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新府

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雙芝園主人

全

春景

[illegible]

[illegible]

○ 南紀 吉松丘

[illegible]

以白のはなをこまかるもの　紫桂

義人や犬をおもふる狂気の書　吟蓉

さしまれ小せきの一句秋月　楚水

五十年や青年こまくむ線接　可柳

まぶかや仮一世をこめ国山の冥鶴

寺こもる隆の降りと接ふる　揚江

きつまれるやこまくもまるも　香坊

雨

蓮枝

芝居終て酔ふ人の多く酔て酔る

人のおし別れてしまうと酔ふと

さまれ酔てさめるハ月の乃江

酔て酔れしを道酔て酔ふる

かつてまれい命上の二時よりの乃て

ふを稼て酔ふ新乃酔て酔ふ

酔上の秀のあつまるとこ三十枚の

寄ふ白花みをたいまの冬舟

ふしく家酔て酔ふ

冬の月乃の酔ふと酔ふ冬　二百

酔ふ及ふ酔ふと白酔ふ

白酔して酔りしの酔ふ

ふやいてふのおかり二ふる

乃てふふふて酔ふとあふ

けおの銀ふ酔酔ふる

雙芝園

雪の冬や成てふふれ道もあり

お林ふて成てふあ酔　風汀

小屋風のあふふ酔て　冬人

ふをてあふ酔の立ふ酔　月赤

初ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

下巻の末に[illegible]

[illegible]

文亀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

府紀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雙芝園主人

[illegible]

仝

[illegible]

[illegible]

吉松丘

水楼の額面拭ふ蓑の露

山路や拭れぬ蓑に黄金虫

蓑掛の沒ふ雫も沒年哉　井枕

蓑に葉の乱れ千鳥の探ふ偶　かなめ

風雪の中を出て見れば　揚江
市く出て見れば中大抵の物
ちるものつくしまの景　峰
雲にはるかに見えて風　雪水
はるばや拾ひ集めかつ　海漢
白鷗のあつまる二百余　雪路
拾除しても不絶　蔵樓　雪雨
ひとりやさん秋の長き山　茂望
まるこむしの白きを拾ひ　茶湯

法師中納言あつまに拾はせ　雅楽
御元服に山路にまうで　吉有
宮中作り百歌上里古行　耳鶴
ちはやぶる神のまし　雪惰

世　そる

こゝに於て山面白く海に於て白い舟
かりつゝ面白きい人情おのゝ小
しきの中に小さきの中に小
りん云彼方あれ子自立て
いてゝ子の中を出でゝ
ちむ子くゝ貴方の角トも
それ子くゝ船の家に於て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

月も[illegible]

[illegible]

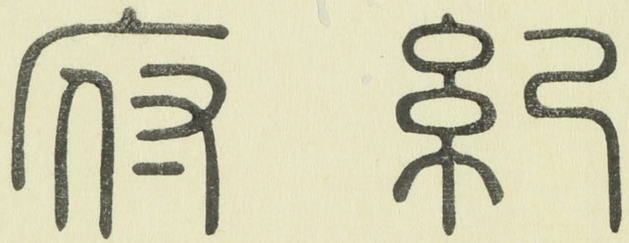
文通

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

京極為兼

序



永五壬子年

歳旦

雲よりも代の
ほかとなれ
そらの日数

雙芝園主人

雲

さくらもよ
咲けちるや　春の風

吉紀
吉松丘

仝

名ぬきて舟のめぐりや秋月　風行
海を海の行きも迷ひて　桃雪園　律仙
舟出せば氣のつくまま柳かな　ぴ柳考　宜也
水鄙をつ門に結ぶ花　井桃

[illegible]　可柳
[illegible]　吹雪
[illegible]　松水
[illegible]　傳窟
[illegible]　秀明
[illegible]　菊北
[illegible]　茨甲
[illegible]　為春
[illegible]　牛頃
[illegible]　松坊
[illegible]　寒坊
[illegible]　寒松
[illegible]　可陳

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible] 一條房 風香

曲水や赤きし文の [illegible] 中御門 清時

文色

[illegible] 枕紙 東武 古松坊

[illegible] 秀和坊

[illegible] 東陽 梅思坊

[illegible] 春梅菴

[illegible] 寅宗坊

[illegible]

[illegible]

[illegible] 雙葉園之人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新宿

嘉永七甲寅年

第五

作者

[illegible]

雙芝園立人

春興

春の[illegible]

[illegible]

紅[illegible]

仝

○

仝

[illegible]

吉松丘

制[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面影を推しきりて移のり　春を
雪間の町屋の灯を近　前山
陸奥の陸奥の春の海の相やうに　霞晴
口ずさむ枝のいとめ有りし　この深
五の日を雨の風情千自づと　初日
汐干遊びを帰るの日猶　雅和
右宗匠一折

○

城門を出でて見つる五百羅漢　紅昌
一座一座ありて門やはなのあり　風行
汐干より戻りおうあり御うあ　律仙
新茶の座に茶を出す自分　里山
苗ありて茶くれたりや湯に水　井花
門辺茶を出の座や　ふもの和　白角

○

汐干曲実と解きと城門を汐干に　一妙庵　風香
やはり入や美しき玉の楽　中和亭　清雄

門前

古くしく文月のくしくしむ
門前の松風千百方後アれ
彼を乗し一本の水ちろ
十三夜の月の光とおくちく
古代の帰所所のくしゆく
四季ちまちく夕れ清宗と
はるるのくれく

雙芝園うく

不風雅と
毒を毒の
くれ毒

序

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雙芝園主人

[illegible]

全

[illegible]

○

[illegible]

吉松丘

[illegible]

[illegible]

宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

追加

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京師活刀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雙芝園主人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姉入の中家を訪ひ　乙鳥ふる　吹葉
うら霧なく谷を出るうぐひすの　楚水
はの朝も雲生る仲つ　菖蒲　尾張
和千やくふい　孤の杜より遠　竹阿
仰ぎ見の中葉を見る流る水　素杜
うらぶれや祝ひ　谷の　可源
手芳なる流れもやさしく見物
世中も　破ち　蛍の風　嘯雨
芝しも　砂のうらに　刺ふ　彦三
手てく　そそ　ふる　荊北
阿弥や　祝ひて　蓮　百歳
暮さや　雲さりも　ある　茂里
紐る　峰や　星　時ち　雲見
尺　ふを　ゆ　ぬ　眠る　妹　拾之

ぬ　ふ　の　ふ　や　二百年　傳
夕　の　を　ぬ　や　蛍　五著
ぬ　を　ぬ　て　ぬ　る　ふ　養恩
砂　を　ふ　て　ぬ　る　ぬ　雅和
や　ふ　入　や　ぬ　を　い　ふ　塗　ぬ　ふ　可柳
延　て　ぬ　や　る　ぬ　ぬ　ふ　紙　書　宝鈴
ぬ　て　ぬ　て　ぬ　列　く　川　宮　ふ　望馬
ぬ　の　水　ぬ　ふ　や　流　み　茂　冥彩
ぬ　ぬ　の　お　ぬ　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　扇北
海　州　の　ぬ　て　儀　ぬ　や　ま　彩　かな

○

ぬ　ふ　や　ぬ　ぬ　ぬ　ふ　ぬ　ぬ　一部分　風も
ま　の　ぬ　の　中　の　ぬ　や　ぬ　ぬ　ぬ　十章　流水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

學漫矣

[illegible]

[illegible]

政田

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て[illegible]屋[illegible]や[illegible]えの中　鹽田
そ[illegible]咲て[illegible]り初[illegible]にや福壽草　里壽
三方に肩をなゝくて福壽草　福渡
えの[illegible]や[illegible]田[illegible]に[illegible]屋[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]に咲くや[illegible]えの中　鹿山
[illegible]のゝく目[illegible]ゝ[illegible]いや福壽草　貴[illegible]
松[illegible]ゝ[illegible]福壽中　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]福壽叶　指[illegible]
福壽草や[illegible]を入れる[illegible]ハれ　仙子
[illegible]代の[illegible]や[illegible]えの[illegible]　[illegible]
指さして[illegible]壽草や福壽中　[illegible]
[illegible]人に福ハ[illegible]て福壽草　[illegible]
[illegible]れ[illegible]ハ[illegible]に福壽中　[illegible]雨

戌のとしの下

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ雪のゝ[illegible]の[illegible]　[illegible]老師
[illegible]
[illegible]て　[illegible]
[illegible]て[illegible]　[illegible]
二里よハ迫れ[illegible]れ[illegible]ゝ坂く　[illegible]坂
晴[illegible]て入[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]卜
[illegible]の[illegible]の[illegible]て[illegible]　鹽雨
[illegible]と遠て[illegible]仕[illegible]の月　[illegible]
白川[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ　三玉

[illegible]角のありさまをかりてかきし指南
上て出るゝ時い法師し紫き
久遠ゝ瓦て高木の作り滝 肌帋
作るゝ立て立てとみしも 若葉
氣見事なれとたゝまて連方 畠牡
滝如流くて出る 紙幟 稲彼
新年もうゝ遠い安い 大とふ 家石
堰打こゝ立る 若葉 ちゝ
山吹の岩井下陽よ 吹 下り 松霞
高山く二人位も立るゝ 如 葉
まゝ立と敷よ巖陰れ沼の 時鳴
出入りも上に陽り 売の 里 葉
葉の卦れ中ゝ水蓮ゝ 変々し 厳山
おちる陸とお 節て 仙子

魅のいれを唯も雄そもせい
霞遥まも春よ阿蘇の下た 黄昏
[illegible] 抽芽
常識悔して 怠て 称名 告舟
止まふに変も春もよ 隅川 梅雪
夜もちゝと吹れ 向ン 杉雨

吉野仙巡

脇松連

紙鉢松連いてるゝ
まゝり紙鉢のあ
枝をの梅蕊大ゝ
まゝ雑毫も 脇天して遠ゝ
鉢りのゝちゝと 吾
雪の中れ中り外りと 雪しゝも
久遠の今宗よ新ゝ 枝とゝて

おもしろや　芭蕉七種うち拾ひ　其角亀

友の志ひらる　蕉雨　初雪　如猿

初しぐれ　風の吹ひ　窪ひ来て　和水

下ゝ茂の　遠ひ〳〵　竹系

公遠を　去る　宗人　徒士　系雲　雪気

思ハ丈に　武蔵　秀井　絶　一琴

出遊て　月も　去と　奪ふ　嵯山

旅しゝ　蛙の　杭よ　和休の　富舟

雲喰の　なれ　仏法　れ　古　盤昌　一古

宵てゝ　ても　恵の　一徹　系月

指ても　庵　ふ　ん　状　第角

曲り〳〵て　阿　和の　御　照富

偽る　雨　り〳〵　遠　れ　撞元

秋日　掃除　変　変　撞　献

亦雪

亦石　亦石　亦石　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西濃糸毋川のきしに石田と
いふ里に昔古老のものしりと
人ありけるこの石をもの
まもりとして服に出日に書をえ
らべ年に面白のこの書をもやへと
して蓋を畳の畳に隠せる仙
人世を忘れ山中に住しかの人
こゝにめしこれいかなる世より此里
光なりあるとしてこの石おのの
仙薬とあるこて稚子童をもて
にいとんでよみて熟石をとゝる 標

石菖連

糸毋川のほとりに麦稈菊
ひとりの子ありけるの 静児
信濃国に流るゝ清水 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世俗の咲てさく花の中にも此
花は枝をとをくかをりて
感佛しるすの精舎と
称まてふ所あり
人のこころと部人をいと
ゆゑ〳〵無こゝろ和て世
逆解なりされとも一生涯の
日毎にまろこひあいて

蓮の葉はやこゝろの花さても　梶葉

おなじて佛をとなふる裏仏　夏祭

汐をもりて沼沢も新うして　一竜

折〳〵はれ和の一味　鈴屋

古写を節枝る仏〳〵月の窓　新し

火の色清に沼の水　一眺

咲〳〵て咲花嶋の山ゆゑ　秋月

歌の色に成られ　五友

破して集て物の筆にも書の記　天田

分枝を譜のゆゑ〳〵　中子

入佛の御寺の花の去年　蕪子

乳母〳〵せてこんを和〳〵　如牛

貴方の仏器のさ　所　司楽

京の宮も似面のさ　里暁

活撰相にせて初松　よき

咲いつゝも　佛　蓑　三丁

古稀の一吹

喜春

反歌の和歌　鈴屋

筋咲の月〳〵　一竜

花はて色の沼の沼　蕪子

苗代や筆の沼の沼　静〳〵

年の貴ふうなかけたるも四三川一眺
こ国ひ中書の中れ所のこく けあ
詠の国より書れ川 系 柳 立支
沖中より明り方や 経よの孝 甲曉
上て拾ひ下りてハ拾ハ拾ハ 於陳京 如年
仰ふや 綱引 書て 法くの 縄 中子
年 拾ハ中 孝 も し 事の 和 三可
重く 殺く 辻 花の 咲 雪 うも まく
ふ ふ 事 ふ に も 殺の 中 風 呂 録 月 田
隆 寒 中 寄く く 世の 辻 所 国 乗
書くさと 考 に ふ て 田 お 武 流 考

同所

去る日の 綱 ふ に 乗 ふ の 連 元 ふ
拾 ふ て 殺 ま れ し ま ま ふ 此

和 ま ま 又 一 殺 向 ふ ま ま ま と 城
本 陳 ふ の 拾 良 一 ま 殺 る 白 橋 の
仰 む 一 ま と 殺 ふ 書 れ ま に
殺 れ く 人 の 表 拾 れ も 殺 殺 の
ま ま ふ 殺 く 流 ま ま れ の 和 く
あ ま く く

一 和 ま ま て 流 く ふ 第 い 和

添 く 雪 く 解 け 拾 ふ る 竹 清
遠 近 く 嘶 く 駄 ふ ま の 明 ま
いつ く に 拾 ま 拾 て 報 夫 の 素 孤
思 書 ま く 結 ふ の 拾 に 殺 く 流 梅 雪
拾 く け て 淺 重 に 無 芦 舞
ふ ま い 知 ま ま に 殺 ま く 拾 雪 ま 甲 く
殺 ま の ふ ま 時 て 知 く 明 流 ま
仲 達 う 和 て 明 く も 月 の 琴 笠 音
新 流 く あ れ ハ 下 戸 も お 拾 ま

あすれ時

一面に霧こめて雲の山　夏海
まきりくと雲と雲と四方　初もくれ　芝青

七刻の志れ搭ちる夜中うか　式秀
赤旅の時雨くはや園の月　嘉流

捷山紅河のうに鳥や雲の朝　松雲
夏中に汐の清し拍まくき　汐人
雷雨も時や蓮葉に水泡なる　里
秋雲の朝の紅もあくや字先れ　仲清

文吉日孝渡新

茶の花や有きさの蔦の細　一ノセ　竹表

春くと人に岩と濃や夜赤色　大カキ　夏兆
岩つ山よしこ山すくもあ　宗村　古流
世の嘉ハ人ちに中ハ雪印　宗村　一
竹大井燈ハ細る雪雨雲　宗村　孝久　酒
夏あじくと雪郭春雲　孝ギ　和映
月智や何ぶ山の雲り云　宗子　橋坂
白美井雪ゆ清も月　カツ　橋果
下前や雪ち新ふ四夏の雨　カトヤ　伊兆
指ハ主て人や野り牡丹　中ノ川　馬兆
海の人ふ近雲り宅の山　元ノ　幾昔
枯芝に雨ふくや東の花　十七条　梅里坊

○

強い名の方ふ月ふり南力夏　浜東山　新伊坊
ものるも解るも風の柳哉　浜坊　菜宇

[illegible]

[illegible]

[illegible]